(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号

特許第5487417号
(P5487417)

(45)発行日　平成26年5月7日(2014.5.7)　(24)登録日　平成26年3月7日(2014.3.7)

(51)Int.Cl.　　F I
F25C 1/00 (2006.01)　　F25C 1/00　Z
F25C 1/24 (2006.01)　　F25C 1/24　303

請求項の数 6　(全 6 頁)

(21)出願番号　特願2009-139860 (P2009-139860)
(22)出願日　平成21年6月11日 (2009.6.11)
(65)公開番号　特開2010-286163 (P2010-286163A)
(43)公開日　平成22年12月24日 (2010.12.24)
審査請求日　平成23年12月16日 (2011.12.16)

早期審査対象出願

(73)特許権者　593038170
林　篤弘
大阪府大阪市都島区高倉町３－６－２２
(72)発明者　林　篤弘
滋賀県守山市水保町１４１４－７

審査官　新井　浩士

最終頁に続く

(54)【発明の名称】飾り付き氷製氷器

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

動物等の意匠を施した形状の意匠部分と、

この意匠部分に対して、当該意匠部分の外郭と区別される形状であって、少なくとも一部が液中に位置して、上面に位置する前記意匠部分の外郭の全てを液面上に位置させるための浮力専用の土台部分とを設け、

当該浮力専用の土台部分は意匠部分との体積比率を１対０．１１以下とする大きさとし、且つ水平方向の長さが厚み寸法よりも長い寸法としたことを特徴とする氷。

【請求項２】

前記土台部分の平面方向の外周は前記意匠部分の平面方向の外郭より外側に形成され、且つ前記上台部分の厚み寸法が前記意匠部分の高さ寸法より長く形成されていることを特徴とする請求項１に記載の氷。

【請求項３】

請求項１又は２に記載の氷を製氷する製氷器であって、前記意匠部分を製氷する意匠部用製氷型と前記土台部分を製氷する土台部用製氷型とを備えた製氷器。

【請求項４】

複数の部品に分割可能にしたことを特徴とする請求項３に記載の製氷器。

【請求項５】

前記製氷型の上部に蓋を設けたことを特徴とする請求項３又は４に記載の製氷器。

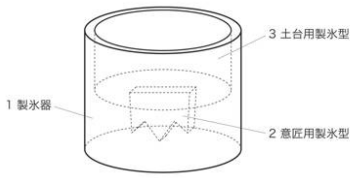
【請求項６】

請求項１又は２に記載された氷を液体に浮かべて、前記液面上に位置する前記意匠部分を鑑賞させるようにすることを特徴とする氷の使用方法。
とする氷の使用方法。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
この発明は、氷を飲料水等の液体に浮かべた際に、その氷の意匠を施した部分が液面より上に突出する形状に製氷する事で、その意匠部分を目視し易く且つ溶け難くし、その意匠形状を見て楽しむ事を容易にする製氷器に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
従来の製氷器で意匠を施した形状に製氷した氷は、飲料水等の液体に浮かべると意匠部の殆どが液体中に沈んでしまう事により、その意匠形状を目視し難い上に、意匠部分が液体と接する事により短時間で溶けてしまう為、意匠形状を見て楽しむ事が困難であった。
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００３】
解決しようとする問題点は、意匠を施した氷を飲料水等の液体に浮かべた際に、その意匠部分が液体中に沈んでしまう事により、意匠形状を目視しにくい上、意匠形状が短時間で溶けてしまうため、その意匠形状を見て楽しむ事が困難な事である。
【課題を解決するための手段】
【０００４】
氷を液体に浮かべた際に、氷が液面上に突出する意匠部と、液体中に沈んで意匠部を支える土台部からなる形状に製氷する為に、製氷器は、意匠部用製氷型と土台部用製氷型を有する。土台部製氷型は、横及び奥行きの平面方向の長さが縦方向の厚みよりも長い氷を製氷可能な形状とする。また氷の比重が約0.9であることから、土台部対意匠部の体積比は1対0.11以下とする。
【０００５】
これらにより、この製氷器で製氷した氷は飲料水等の液体に浮かべた際に、その意匠部氷を液面より上に安定して突出させ、目視し易く且つ溶け難くなり、その意匠形状を見て楽しむ事が容易となる。
本発明は、以上の構成よりなる製氷器である。
【発明の効果】
【０００６】
この製氷器（1）で製氷した氷は飲料水等の液体（８）に浮かべた際に、 土台部氷（７）が液体中に沈み 意匠部氷（６）を支持する形状となるため、 意匠部氷（６）は液面から突出し、目視し易く且つ溶けにくくなり、その意匠を見て楽しむ事が容易となる。
【発明を実施するための最良の形態】
【０００７】
以下、本発明を実施例の図面に基づいて説明する。
第１図は請求項１記載の実施例を示す斜視図である。
第２図は請求項１記載の実施例を示す断面図である。
第３図は請求項１記載の実施例により製氷した氷を飲料水等の液体に浮かべた使用例の斜視図である。
氷を液体（８）に浮かべた際に、液面上に突出する意匠部氷（６）を製氷する意匠部用製氷型（2）と、液体中に沈み、意匠部を支える土台部氷（７）を製氷する土台部用製氷型（3）を有する製氷器（1）である。土台部製氷型（３）は、横及び奥行きの平面方向の長さ（4）が縦方向の厚み（5）よりも長い氷を製氷可能な形状とする。また氷の比重が約0.9であることから、土台部対意匠部の体積比は1対0.11以下とする事により、製氷した氷を飲料水等の液体（８）に浮かべた際に、意匠部氷（６）を液面より上に安定して突出さ

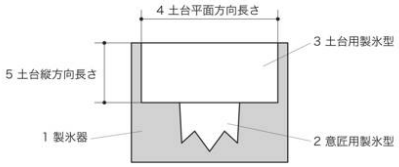
せる事が可能となる。

これにより、この製氷器（１）で製氷した氷は飲料水等の液体に浮かべた際には、その意匠部氷（６）を液面より上に安定して突出させ、目視し易く且つ、溶け難くなり、その意匠形状を見て楽しむ事が容易となる。
本発明は、以上の様な構造である。
これを使用するときは、製氷器（１）の意匠部用製氷型（２）と、土台部用製氷型（３）の両方に水等の液体を入れて冷凍庫等で冷却し、製氷した意匠部氷（６）と土台部氷（７）からなる氷を製氷器（１）から取り外し飲料水等の液体（８）に浮かべる。
【０００８】
第４図は請求項２記載の実施例を示す斜視図である。
第５図は請求項２記載の実施例を示す分解図である。
第６図は請求項２記載の実施例により製氷した氷を飲料水等の液体（８）に浮かべた使用例の斜視図である。
製氷型から氷の取り外しが困難な意匠形状の意匠部用製氷型（２）を有する製氷器（1）を制作する場合は、製氷器（1）を複数の部品に分割して、製氷型から氷の取り外しを容易にする。
【０００９】
第７図は請求項３記載の実施例を示す斜視図である。
製氷器（１）の上部に蓋（１０）を設ける事で、製氷する氷への異物の混入を防ぐと共に、製氷型内の氷の冷却ムラを軽減し、冷却時の氷の歪みを抑える事が可能となる。
【図面の簡単な説明】
【００１０】
【図１】本発明実施例１の斜視図である。
【図２】本発明実施例１の断面図である。
【図３】本発明実施例１で製氷した氷の使用例である。
【図４】本発明実施例２の斜視図である。
【図５】本発明実施例２の分解図である。
【図６】本発明実施例２で製氷した氷の使用例である。
【図７】本発明実施例３の蓋を外した状態の斜視図である。
【符号の説明】
【００１１】
1 製氷器
2 意匠部用製氷型
3 土台部用製氷型
4 土台部平面方向長さ
5 土台部縦方向厚み
6 意匠部氷
7 土台部氷
8 液体(飲料水等)
9 コップ
10 蓋

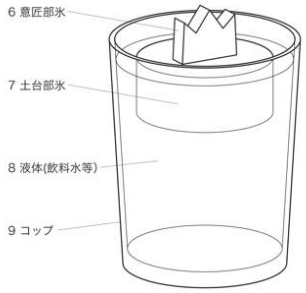
【図１】



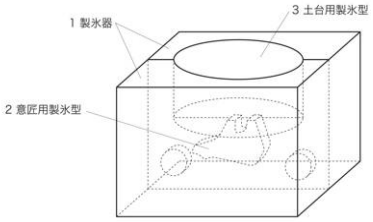
【図２】



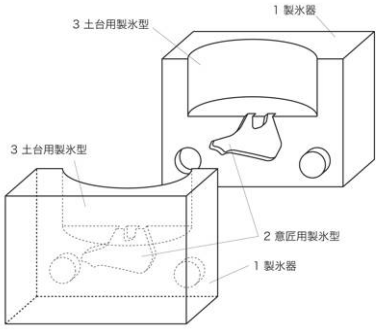
【図３】



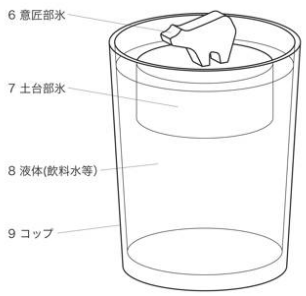
【図４】



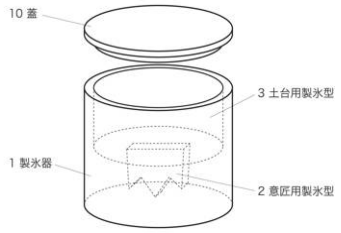
【図５】



【図６】



【図７】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開２００３－３０７３７３（ＪＰ，Ａ）
実開昭５２－１７１７５７（ＪＰ，Ｕ）
実開昭４７－００３３４７（ＪＰ，Ｕ）
Shark Fin Ice Tray，２００９年 1月２６日

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ｆ２５Ｃ １／００